

人をつなぎ、未来をつなぐ、まちづくり

中村市長は、市議会3月定例会で30年度の施政方針を示しました。
30年度のスローガンは「人をつなぎ、未来をつなぐ、まちづくり」。
「17万市民のために、全力を挙げて、未来に夢や希望の持てる、ワクワクする西尾市を創っていく」との決意を胸に、新年度の主な施策を説明しました。

予算編成

普通交付税の特例や、固定資産の評価替えなどが影響し、財政状況はますます厳しくなると予想されます。全体の方針として「住みたいまち」「働くことのできるまち」「訪れたいまち」の3つの観点から、少子高齢化と人口減少に対応します。

30年度の市税収入は、個人市民税、法人市民税などが増え、昨年度を上回る292億円の見込みです。一般会計532億円と特別会計・企業会計を合わせた総予算は、1026億円の見込みです。

活力と魅力あふれる産業づくり

■観光事業

10月～12月に、CMやJR各駅・車両内のポスターなどで愛知県観光をPRする「愛知デステイネーションキャンペーン」が開催されます。それに併せて、県が主催する観光展や旅行会社へのセールスに積極的に参加し、「観光のまち西尾市」をPRします。

西尾市観光協会と協力し、地域ブランド「一色産うなぎ」「西尾の抹茶」「三河一色えびせんべい」をはじめ、地域資源を活用した商品開発に注力します。

■農業・水産業の振興

30年度から、国の米政策の見直しにより、米の生産数量目標の配分が廃止されます。米が過剰に生産される恐れがあるため、J・A西三河と協力し、麦・大豆への転作を推奨していきます。

福地南部地域の「農業副都心構想」は協議の結果、取り下げることにしました。今後、J・A西三河が考える「憩の農園を中心とした活性化策」の支援を検討します。

危機的状況にあるアサリ資源の復興のため、稚貝の放流や有害生物の捕獲駆除を支援するほか、良質な砂の投入や、環境基準内での窒素やリンなどの栄養塩の試験的放出などを国や県とともに支援します。「一色産うなぎ」の発展のため、老朽化した養鰻水道の敷設替などを支援します。

■ふるさと応援寄附金制度

昨年1年間で約7500件、1億4600万円を西尾市に寄附していただきました。返礼品を充実させ、西尾の魅力を全国へPRします。

■企業誘致

企業立地の手続きのワンストップサービスや、工場等建設奨励金などのさまざまな優遇制度の充実、職員の企業訪問に取り組んできました。その結果、市内の企業誘致の実績は、県内トップクラスを誇ります。さらに誘致を進めるため、一定規模以上の製造業などの工場立地に必要な緑地面積率を緩和します。法光寺町地内の堀割地区で内陸工業団地を造成



し、企業のニーズに対応します。
地域産業の「競争力の強化」や「稼働力の向上」を目指し、東京都で開催される大規模展示会に市内のものづくり企業と共同出展します。西尾駅西広場に開業予定のコンベンションホールで「産業立地セミナーin西尾」を開催し、「ものづくりのまち西尾」の知名度を広めます。

利便性と快適性を高める基盤づくり

■幹線道路の整備

国道23号名豊道路岡崎バイパスは、28年2月に西尾東インターチェンジまで4車線化され、物流や交通の利便性が高まっていますが、渋滞を解消するための整備が遅れています。渋滞の解消に向け、全線の4車線化を引き続き強く要望します。

県の事業では、衣浦岡崎線の4車線化や、西尾幡豆線の鶴ヶ池町地内から吉良町地内までの早期整備を強く要望します。安城一色線は国道247号との交差点改良を含めた事業認可を取得し、一色町地内での整備に着手しています。徳永富田線の市子町から平口町の区間では、34年度の開通を目指し整備を要望します。

市の事業では、西幡豆町地内の中部幹線の国道247号から幡豆支所までの区間を30年度末までに供用できるように整備します。愛知県立特別

支援学校の建設に併せ、須脇15号線（仮称）や田貫徳永線、平坂93号線を整備する他、池田野田1号線や吉田224号線などの道路改良工事、熊味今川1号線の電線類の地中化などを進めます。

■上下水道・インフラの整備

上下水道の重要管路耐震化・老朽管更新事業を計画的に進め、志貴野水源送水場の浄水設備の更新や漏水調査を実施します。老朽化が進む公共下水道の既設管路の耐震改修と一色西部ポンプ場の耐震補強を実施し、地震対策をしていきます。

■公共交通

名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会の誘客推進活動を支援し、魅力ある地域資源を紹介するマップの作成や移動手段の研究などに取り組み、利用者の増加を促します。観光と連携し、沿線地域を活性化させます。

六万石くるりんバスと民間バスの競合区間や料金格差などを解消するため、市内のバス路線の再編を検討します。吉良地区では、いこまいかーの目的地の拡大を予定しています。その状況を検証し、他の公共交通空白地区へのいこまいかーの普及や目的地の拡大を調査・研究します。

■西尾駅周辺の整備

名鉄西尾駅西広場に建設されているコンベンションホールの整備費用を補助します。隣接するホテル棟と併せ、商業・情報・交流機能の集積や交流人口の増加を図り、中心市街地全体のにぎわいを創出します。

地域を支える文化と人を育む環境づくり

■子育て支援

出産した方に「西尾すこやか祝い金」を支給する制度を創設します。保育園・幼稚園の給食費の無料化を継続し、公立幼稚園の保育料を一部引き下げるなど、子育て世帯の経済的負担を軽減します。子育て世代包括支援センターを保健センター内に設置し、妊娠期から就学前までの保護者と子どもの困り事に対応するなど、切れ目ない子育て支援を展開します。吉田保育園など5園のトイレの洋式化、米津保育園と三和保育園の外壁補修工事を実施するとともに、一色町赤羽地区の市営住宅跡地にちびっ子広場を整備し、子どもの遊び場を確保します。

■学校教育の充実

学校司書を増員し、子どもが本にふれあう機会を増やします。小学校3年生までの少人数学級を継続し、細やかな指導を徹底します。特別支援教育の補助者を増員し、障害のある児童生徒の支援を充実させます。6月から始める「西尾市サポートスクール」では、教員OBが生活保護世帯などの中学生を指導し、基礎的学力の向上を支援します。能力があるにも関わらず、経済的な理由で修学が困難な高校生に対し、学業に必要な資金を支給する「西尾市奨学金制度」を創設します。



■愛知県立特別支援学校

34年4月開校を目指して県教育委員会が整備する県立特別支援学校の用地を、須脇町地内で取得しました。その隣接地に建設を予定している新たな学校給食センターの土地造成も一体的に進め、設計業務などを行っています。

■小・中学校の施設整備

鶴城小学校や一色中学校など12の小・中学校でトイレの改修を引き続き実施するとともに、体育館の耐震化や校舎の防水改修、図書室の空調設備の設置などを進めます。

■歴史公園の整備

地域の歴史を学べる憩いの場とし、観光客を誘致するため、31年度に歴史公園の西尾城二之丸丑寅櫓と、それに続く土塀を復元します。

■読書の推進

身近な図書館を目指し、図書館情報システムと利用者用のインターネットパソコンを更新します。業務システムとホームページをリニューアルし、図書館や読書などの情報を発信します。

■スポーツ振興

8月に、総合体育館で「全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技」が開催されます。西尾ならではおもてなしで全国の拳士や観客を迎え、大会を盛り上げます。合併10周年にあたる32年度に、三河湾沿岸を舞台とするフルマラソン大会を開催し、市民の健康増進や観光振興を図ります。

安心できる暮らしを支える健康・福祉のまちづくり

■市民病院

最重要施策として市民病院の経営改善に取り組みます。29年度に策定した「西尾市民病院改革プラン」を実行し、安全・安心な医療の提供と経営の安定に努めます。市長自らが医局などを訪問し、医師不足の解消を目指します。現在、碧南市民病院に対して経営に係る協議を申し入れています。市民や有識者などの第三者を交えた委員会を設置し、経営統合と新病院の建設を検討したいと考えています。

■健康づくり

高齢者肺炎球菌、高齢者インフルエンザなどの予防接種の助成に加え、接種済みの定期予防接種の効果が期待できない子どもに対し、医師が認めた予防接種の再接種を助成します。妊産婦・乳児健診、妊婦歯科健診も引き続き助成します。特定健康診査の結果と月ごとの診療報酬明細のデータを活用し、糖尿病と高血圧の方の早期治療と重症化予防のための「ヘルスアップ事業」を引き続き実施します。

■高齢者の自立生活の支援

住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けられるように、医療や予防、介護などのサービスが適切に受けられる地域包括ケアシステムを構築します。多職種が協働し、在宅医療・

介護を一体的に提供するため、4月に「西尾市在宅医療介護連携支援センター」を設置します。

認知症地域支援推進員などの専門職と認知症サポート医で構成する「西尾市認知症初期集中支援チーム」では、認知症の方やその家族に、医療機関への受診や介護保険サービスの利用の助言を行います。包括的・集中的に初期の対応を行い、認知症高齢者を支援します。地域での支え合いや助け合いを支援するため、高齢者生活支援コーディネートセンターを、市内7か所の地域包括支援センターに配置します。

■障害者福祉

一般の歯科診療所では治療が困難な障害者のために、西尾市障害者歯科診療所(仮称)の建設を進めます。31年4月の開設に向け、7月から休日診療所西側で建設に着手します。

安全とるるおいのある環境づくり

■防災・減災対策

本市は巨大地震による津波で広範囲の浸水が予想されているため、河川や海岸の堤防の整備が急務です。国の補助を受けて順次海岸堤防の耐震化を進めている寺津漁港では、30年度は延長250メートルの区間を施工します。地盤が低く住宅が密集している地域で海岸堤防の耐震化を



優先的に進めます。矢作古川と矢崎川、北浜川の堤防の津波対策や、平坂樋門の耐震化が早期に完了するよう、引き続き国や県に強く働きかけます。

災害時の非常連絡網を強化するため、一色・吉良・幡豆地区に整備されているアナログ方式の防災行政無線を順次更新していきます。災害時に利用できるマンホールトイレなどを整備するため、現地調査や実施設計を行います。

命山や津波避難タワーなどの津波避難施設は、早期に検討協議会を立ち上げ、建設を検討します。災害時に救助・救命活動、物資輸送などの基点となる防災ヘリポートの候補地



選定や、災害時のドローンの活用方法の研究に取り組みます。家具転倒防止器具の購入費の2分の1を補助する制度を創設します。

■地域ぐるみの防犯対策

防犯灯・防犯カメラ設置の補助や防犯パトロール、被害防止の啓発、交通安全教室などを実施します。

■環境保全の推進

住宅用太陽光発電装置や蓄電池、電気自動車・燃料電池自動車など低公害車の購入費用を引き続き補助します。

■産業廃棄物最終処分場の問題

一色地区に放置された産業廃棄物最終処分場跡地は、有識者会議の提案を尊重し、県と連携して対応します。新たに計画されている産業廃棄物処分場の建設は、周辺住民や隣接する学校への騒音や振動、悪臭などによる被害が心配されます。巨大地震による津波や液状化の被害も想定され、三河湾全体の環境汚染をはじめ、「一色産うなぎ」や水産業への風評被害が懸念されます。計画地が適地ではないことを証明し、県に対して許可しないことを強く求めています。

市民と行政が共に考え、行動するまちづくり

■学生議会や女性議会

学生議会や女性議会を開催し、こ

れまで市政に参画する機会の少なかった方の提案や意見をお聴きします。

■行財政改革の推進

効果的・効率的な事務事業を目指す市行財政改革推進計画第5次実行計画では、すでに策定済みの下水道事業計画の抜本的な見直しなど16の具体的な取り組みに加え、「補助金制度の見直し」「防犯灯の二斉LED化」など、8つの取り組みを追加し、本格的に実行します。

事務事業評価を活用した「事業の棚卸し」を実施するとともに、市民の皆さんが積極的に市政に参加する「市民討議会」を開催します。31年度の予算編成から、その過程を公開し、市民の皆さんが意見を言える制度を実施します。

■地方創生への取り組み

市の魅力や都市イメージを目に見える形にまとめたシティプロモーションブックやウェブサイトを活用して広く発信します。写真共有アプリ・インスタグラムで積極的に情報を発信し、子育て世代を中心とした若い世代の移住・定住を促進します。

■西尾市方式PFI事業

PFI事業として進める公共施設再配置第1次プロジェクトは、建設工事などを中断し、市民の皆さんの声を反映させるため、意見交換会や市民アンケートを実施してきました。見直し方針を策定し、実現に向けて取り組んでいます。

終わりに

市長就任以降、「市民主役のまちづくり」を掲げ、地区別の懇談会、高校生や新成人とのまちづくりトークなどで市民の皆さんと対話してきました。多様化する市民ニーズに対応するには、地域のコミュニティや企業、NPO法人などの諸団体の力を借りながら、人と人とのつながりを生かすことが不可欠です。行政としての説明責任を果たし、市民の皆さんと信頼関係を築きながら、明るい未来へとつなげたいと考えています。30年度の市政運営のスローガンは、「人をつなぎ、未来へつなぐ、まちづくり」です。未来に夢や希望の持てる、ワクワクする西尾市を創っていきます。西尾市は、今年市制施行65周年を迎えます。市の魅力を高め、「住んでみたい」「住んでよかった」と一人でも多くの方が感じるよう、「チーム西尾市」で市政の運営に取り組めます。

